



内閣府（防災担当）

大規模噴火時の広域降灰対策検討 ワーキンググループ（第4回） 議事要旨

1. 日 時

令和2年3月31日（火）

2. 場 所

書面開催

3. 議 題

（1）ワーキンググループ報告書（案）について

4. 議事要旨

○ 各委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。

- この規模の災害が発生した場合、被害の甚大さや避難の広域性を考慮すると、自治体レベルでの対応には限界があり、関係する指定公共機関や地方公共団体と連携しながら国が中心的な役割を果たす必要があるという検討会の基本的なスタンスを明記すべきではないか。
- 重機が利用できなかった時代に発生した、富士山 1707 年宝永噴火や桜島 1914 年大正噴火では、堆積した火山灰とそれに埋没した畑土をほぼその場で上下に入れ替える「天地返し」が行われたことなど、歴史時代の対応についても記載すべきではないか。
- 実際の噴火の継続時間や降灰量は不明であることから、対策に要する時間は確実なものでないことを前提に、状況の推移に応じ臨機応変に検討するよう記載すべきではないか。
- 関係省庁、指定公共機関等において今回のワーキンググループで明示された広域降灰対策が具体的かつ速やかに検討・実施されるよう記載するべきではないか。

以上